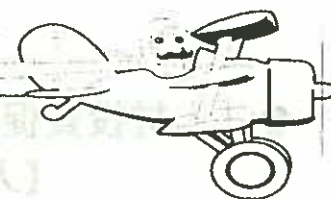


# 経営者のための生命保険講座 第 83 回

今日のテーマ

## ①個人事業主に必要な保険とは!?



一口に個人事業主向けの保険といっても色々な事業・規模があり、ニーズもさまざまです。そのため、それぞれのニーズ（問題点）を解決するためのプランニングが必要となります。保険加入に際しては、事前に下記の点をしっかりと確認しましょう。

保険加入の前に  
「3つの確認」

- ①何のために入るのか？（目的）
- ②いつまで、いくら必要か？（保険期間、保険金額）
- ③いつまで、いくら払うのか？（払込期間、保険料）

### 【外資系S社の場合】

個人事業主本人

円滑な事業承継と遺族生活資金の確保！（→個人契約）

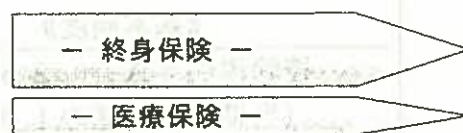
#### ■ 目的

〔万一の事があった場合〕

- > 当面の事業資金確保 または事業清算資金
- > 負債の返済資金
- > 遺族生活準備資金



- > 遺族生活資金の一部、整理資金
- > 引退後の生活資金（解約返戻金活用）



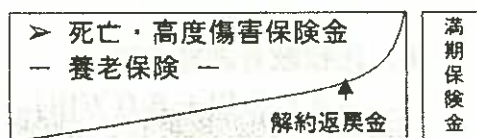
※ 経理処理（支払保険料は必要経費不算入・生命保険控除対象）

従業員

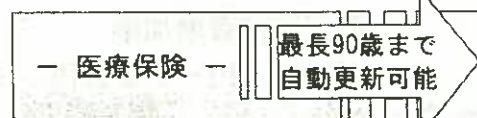
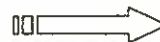
福利厚生制度の充実で、優秀な人材確保！！（→事業主契約）

#### ■ 目的

- > 死亡退職金・弔慰金準備資金・生存退職準備資金
- 受取人：満期（事業主）、死亡（従業員の遺族）



- > 傷病見舞金準備資金



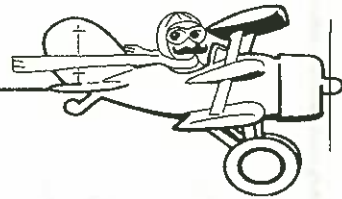
※経理処理

支払保険料は必要経費、養老保険については一定条件を満たした場合、1/2は資産計上（法人税の取扱いに準じて処理されますが、普遍的加入の要件等注意点ががあります。）

（退職時に名義変更することも可能 \* 別途経理処理が

今回は、個人事業主の方のための保険について紹介いたしました。個人事業主については、事業および従業員のための保障とご自身を含めた家族のための保障が必要となります。しかし、その反面、社会保険ではあまり保障されていないので、ご自身で万が一のリスクにしっかりと備えましょう！  
具体的なご相談に応じますので、お気軽に声をかけてみてください。

## ②医療保険の活用法



今回は、法人契約としての医療保険について考えてみましょう。

混合診療・窓口負担等、今後増えるであろう医療費負担をどのように準備すればよいのか？  
医療保険の効果的な加入方法をご紹介しますので、ぜひご参考にしてください。

### 医療保険の保険料と給付金の税務上の取扱

(保険料全期払の場合)

	法人契約の場合	個人契約の場合
契約者	法人	経営者
被保険者	経営者	経営者
給付金受取人	法人	経営者
保険料	損金算入	生命保険料控除
給付金	益金計上	非課税

### ★お得な加入方法—【契約の名義変更（買取）の活用】

“法人から個人へ” 保険契約の名義を変更することが可能です。

ステップ1 法人契約で短期払の終身医療保険に加入

ステップ2 保険料払込終了後、法人から経営者個人へ名義変更（買取）

ステップ3 保険料負担のない終身の入院保障として継続

- ① 法人の支払保険料は損金算入可能（名義変更時に支払保険料の大半を損金算入します。）
- ② 変更後は保険料負担のない終身入院保障の確保！！しかも、受け取る給付金は非課税！！
- ③ 低廉な解約払戻金相当額で経営者が契約を買い取ることが可能。
- ④ 解約払戻金が少額なためいつでも買い取りO.K.

カタカナ系〇社の

#### 【契約例】

50歳男性：終身医療保険（60歳払込）

（初期入院特約・退院特約・生活習慣病特約5,000円付）

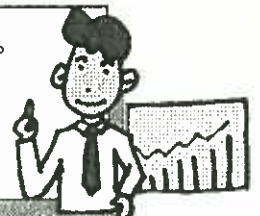
給付金日額 1万円 月払保険料 30,350円

解約払戻金：払込中＝0円・払込終了後＝いつでも30万円

今回は“経営者だからこそ”できる医療保険の効果的な加入方法をご紹介します。

このように保障内容以外の部分でも、効果を高める方法があります。

具体的なお相談に応じますので、お気軽に声をかけてみてください。



担当 斉藤 直哉